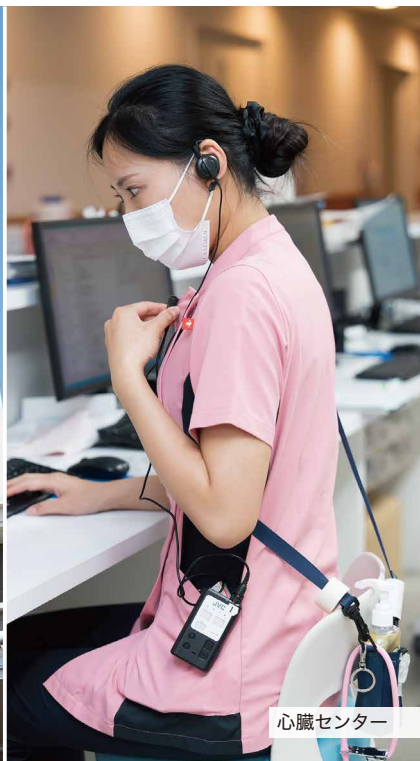


デジタルワイレスインターカム WD-D10シリーズ

宇治徳洲会病院 様 京都府宇治市



インターカムでつなぐ医療連携 リアルタイム情報共有により、 業務負担軽減と患者サービスの向上を実現。

宇治徳洲会病院は、京都府南部の地域医療を支える急性期病院として、救急医療から高度専門治療まで幅広く対応しています。今回、多忙を極める心臓センターおよび内視鏡センターにおいて、情報伝達の遅延による業務負担を軽減し、現場の連携力を高めるため、JVCデジタルワイレスインターカム「WD-D10シリーズ」を導入しました。

導入の背景

心臓センターでは、急性期から心臓外科手術まで幅広い医療を担っており、1日の入退院件数が多く、検査・清掃・搬送などの指示が集中する状況でした。連絡手段が限られていたことから、担当者が不在の場合には情報の伝達が滞り、業務効率が下がるだけでなく、患者様の待ち時間が長くなるケースも見受けられました。

一方、内視鏡センターでは、予約検査と救急患者の臨時検査が同時に発生した際に、リーダーが各検査室を回って担当者を探し、口頭で指示を伝える必要があり、職員の業務負担が大きい状況でした。

両部門に共通していたのは、即時性と確実性を備えたコミュニケーション手段の不足であり、現場からは改善を望む声が強く上がっていました。

心臓センター

導入のポイント

- ▶遅延のない通話により、急変や検査依頼が絶え間なく発生する現場で、リアルタイムに指示を共有できる体制を構築。
- ▶最大10人までの同時通話により、補助者同士が状況を把握し合い、業務が重なる時間帯でも効率的な対応が可能に。
- ▶優先順位の変更や緊急対応も、ボタン操作ひとつで即座に伝達でき、チーム全体の連携力を強化。



お客様の声

インターカムがあることで、リーダーの指示をすぐに伝えられるようになり、検査や搬送がスムーズになりました。補助者同士でも“今どこを掃除しているか”などの状況を共有できるため、効率よく働いています。以前より患者様をお待たせしなくなり、大きな効果を実感しています。

心臓センター 看護主任 中森 久実子 氏



内視鏡センター

導入のポイント

- ▶予約検査と救急検査が同時進行する状況でも、リスニングモード※で運用することで、10人以上のスタッフ(全スタッフ)へ一斉に情報共有が可能。
- ▶検査中に異常が生じた場合も、患者様を一人にせず医師を呼べる体制を確保し、安全性を強化。
- ▶マスク越しの小さな声でも、クリアな音質で確実に伝わるため、大きな声を出す必要がなく、患者様への心理的負担やプライバシーへの不安を軽減。

※リスニングモード：最大64台まで運用可能な受話専用モード。必要な時にはトークボタンを押して通話に参加することもできます。



お客様の声

インターカムで全員に一斉に共有できるようになり、業務負担が大幅に軽減されました。救急検査が入ってスケジュールが変更になっても、全スタッフが同じ情報を把握できているという安心感があります。大声で呼び合う必要がなくなり、待ち時間の短縮やプライバシー確保にも繋がりました。

内視鏡センター 臨床工学技士 坂 知明 氏



医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院

京都府宇治市榎島町石橋145番
<https://www.ujitoku.or.jp/>

京都府宇治市に位置し、1979年の開院以来「生命を安心して預けられる病院」「健康と生活を守る病院」の理念のもと、地域の救急・急性期医療を担ってきました。地下1階・地上10階で、稼働床数は479床を有し救命救急センター、災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターなどにも指定されており、24時間365日体制で地域医療を支えています。

※記載の法人・団体名・組織名・所属・肩書きなどは、すべて取材時点でのものです。